

令和5年2月定例会（03月01日）

◆32番（森田卓司議員）

皆さんこんにちは。自民党岡山市議団新政会の森田卓司でございます。

まず最初に、勇退される議員の皆様、16年前を思い出して、私も小さな議会からこの議会に送り出され、そのとき本当に親切にいろいろ教えていただいた先輩議員の皆様、ありがとうございました。そして、今回私の同期の議員も3名勇退されます。先ほど質問に立たれた中原議員、東原議員、竹之内議員、いろいろお世話になりました。質問戦とか、いろんなところで切磋琢磨して、議員としても成長できたとし、人間としても成長できたと思います。今後とも御指導のほどよろしくお願いを申し上げます。

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

まず、周辺地域について。

(1) 周辺地域の現状と課題についてお伺いします。

今議会でも少子化について、本当に多くの議員の皆様、また代表質問でも質問されました。我々新政会も、いろんなところでいろんなお話を聞いたり、私個人的にも今ここ数か月ぐらい、いろんな方と地域の方とお話ししますと、そういう中で言われるのが、森田君、子どもがおらんのかな、寂しいなあというような話をお聞きします。そういう中で私が言っていたのは、今回子育てに不安を抱えている若い人たち、そういう人たちが子どもを安心して育てていける一丁目一番地だと思います、子どもの医療費拡充問題でございます。課題でございます。大森市長が3期目の当選を果たされたときに、我々新政会としても、この医療費の拡充の問題をしっかりとやっていっていただきたいというようなことを言いました。令和4年度末には、そういうふうなことを言いたい、表明したいというようなことを市長のほうからこの質問戦の御答弁でも多くのことを言われたところでございます。

そういう中で、拡充がこの令和5年度の予算で提案されています。新政会としても、本当にこの予算に対して感謝と敬意を表するところでございます。ぜひ、これから国のほうも子育てに関することを拡充していきと言われてはいますけれども、岡山市としてもしっかりと取り組んでいただきたいと思っております。

また、空き家についてでございます。

今回、先ほども言いましたが、いろんなところを歩いていると、4年前と比べて本当に多くの空き家が出ております。16年前に私が最初の選挙を建部町の中でやっていたとき本当に新しい家だった、建てたばかりの家だったのがもう今や竹とか草とかが生えて全く見る影もないような、家は新しいんですけど、その周りを見ると、とても人が住んでいるような状況ではないし、住めるような状況でもない、そういう家が本当にたくさんあります。

そういう中で、今回1つ思ったのは、移住してこられた方、子どもが3人おられる若い御夫婦で、回っていったときにリフォームの業者の人がやっているのかなと思って、こんにちはって話をしたところ、こっちに住むことになったんじゃないかなというような話を聞きました。本

当にうれしく思いました。この夫婦とか子どもが大きくなって、この地にずっと住み続けることができることをしていかななくてはいけないんだなと感じているところでございます。

そういう中でございますが、そういう話をしている間に大森君は元気でやっておるかなというようなお話を聞いたりします。大森市長の同級生がいらっしゃいまして、大森君と言うとりました——お元気で、高校のときの同級生ですよ——高校のときの同級生が元気でしようかなって言うのでお元気でですよと言いました。

いろんな話があるんですけど、前にも言うたことがあるかもしれませんが、森田くん頑張ってるよ、応援しようからなと言われて、はい、ありがとうございますと。本当にうれしいお言葉だと思っております。

そこでお尋ねします。

ア、御津・建部地域の課題と現状及び今後の在り方について、岡山市としての御所見をお示しく下さい。

イ、空き家を生まないプロジェクトでは、昨日則武議員もいっぱい質問されておりましたんで私は1つだけ。

御津・建部地域でもこの空き家を生まないプロジェクトが利活用できるかどうか、お示しください。

ウ、同じ空き家でも、中心部と周辺部では状況と対策が違ふと感じます。それぞれの対策を考えるべきだと考えるが、御所見をお示しください。

エ、地域課題の解決に向けた住民のアイデアを生かした事業に地域振興基金を活用することは可能でしょうか。

(2) 地域おこし協力隊についてお尋ねいたします。

地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域へ移住し一定期間地域に居住して、地域おこしの支援や住民の生活支援など地域協力活動を行いながら、その地域への定住を図る取組と示されています。

私の住んでいる隣の久米南町では、平成25年に同制度を導入されています。現在まで12名が久米南町で任務に就かれています。現在も隊員として活動されている5名を除く7名が任務を終了し、そのうち6名が久米南町に定住されているとお聞きしました。また、美咲町では、平成28年に同制度を導入し、現在まで9人が任務に就かれています。現在も隊員として活動されている5名を除く4名が任務を終了し、そのまま美咲町に定住されているとお聞きしています。

そこでお尋ねします。

ア、令和5年度予算案で地域おこし協力隊事業が提案されています。その内容についてお示しください。

イ、岡山市では、平成28年度に初めて地域おこし協力隊の隊員を導入しています。現在までの実績をお示しください。

ウ、地域と協力隊員の間には任務について認識の違いがあると思うが、いかがでしょうか。

エ、地域の方々は隊員としての任務終了後もそのまま住み続けることに大きな期待をしているが、そうはいかない現実もあると考えます。どこに問題があると考えているのか、お示してください。

(3) 河原邸についてであります。

地域の皆様方が集まって、いろいろな行事等開催される地域にとって絶対に必要な施設です。また、本年2月には2日間にわたりテレビの特集ドラマの撮影が行われる等、地域以外からも特色ある施設として注目を集めています。

そこでお尋ねします。

河原邸の今後の在り方についてどのような方向性を目指していくのか、岡山市としての考え方をお示してください。

地域の皆様方が安心して活動ができる状況にするべきだと思うが、いかがでしょうか。

(4) 岡山御津高等学校について。

本日、県立高校は卒業式の様です。おめでとうございます。

岡山県教委は、新入生が一定数を下回った状況が続く県立校を再編（統廃合）対象にするに定めた岡山県立高等学校教育体制整備実施計画をめぐり、自治体内で1校のみになっている県立高校を統廃合の対象から外すとのことです。岡山御津高等学校は、再編対象から外れた県立高には入っていません。

国、県の方針で、平成の大合併が行われたと認識しております。新聞報道ですが、統廃合が地域の活性化に与える影響を考慮した、また県立高の空白エリアの増加を回避すると示されています。御津高校が廃校になると、JR津山線沿線には高等学校が1校もなくなり、津山線利用者も減少し、津山線の存続にも影響を与えるとの御意見を多くいただきます。

そこで、岡山県、岡山県教委に対して御津高等学校の存続について申入れ等を行うべきではないかと考えるが、いかがでしょうか。

次に、多面的機能支払交付金制度と田んぼダムについてです。

田んぼダムとは、田んぼがもともと持っている水をためる機能を利用し、大雨の際に一時的に田んぼに水をため、ゆっくりと排水することで、農地や市街地の浸水被害を軽減しようという取組と示されています。近年の気候変動の影響により、水害へのリスクが懸念されているのが現状です。そのような中で、国では田んぼダムへの取組について、多面的機能支払交付金における単価を加算するなどの支援を行っています。

そこでお尋ねします。

(1) 田んぼダムの取組を行っている活動組織と取組面積をお示してください。

(2) 田んぼダムに取り組むためにかかる経費のうち、交付金を利用できるものをお示してください。

(3) 多面的機能支払交付金における田んぼダムの取組要件をお示してください。

(4) 田んぼダム制度の周知について、方法をお示してください。

以上で1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◆32番(森田卓司議員) それでは、幾つか再質問させていただきたいと思います。

ではまず、市長から御答弁いただきましてありがとうございます。しっかり地域の方に伝えておきます。よろしくをお願いします。

それから、地域振興基金ですが、この件に関してはまたいろいろな動きがあったときに局長、相談させてください。しっかり相談に乗っていただきたいと思います。

それから、地域おこし協力隊ですが、先ほど予算の中で来年の募集と言われていましたが、何名ぐらいを募集されるつもりなのか教えていただければと思います。

河原邸ですが、質問の中でも言いましたけど、やっぱり地域の人は3年ごとに県と協議せにゃいけんということで、非常にナーバスになっておられます。そういうことを受けて、安心して活動ができるような状況に県と協議する必要があるのかも分かりませんが、しっかりその辺のことを言っていたいただきたいと思います。これも要望で構いません。

それから、御津高等学校です。

岡山市としては仕方がないのかなと思っております。ただ、僕が先ほど16年前にここに来させていただいたと言いましたけれど、そのときも福渡高校が廃校になって、そこをどうするかというとき、県は何もしてくれなかったんじゃないかと思います。御津高の敷地を誰が持つとか分かりませんが、行く行くはこのまま来年度、それからその次の年が募集定員に足りなかったら統廃合の対象だから——相当先の話だと思いますけれど——岡山市がその廃校跡地を何とかせにゃいけんようになるんじゃないかということも考えられます。そういうこともしっかり考えながら対応も、今すぐというわけではないと思いますが、ぜひ考えておいていただきたいと思います。

質問は、最後の多面的と田んぼダムの件です。

多面的機能のこの件では、今までも言うたかも知れませんが、結構事務が複雑だということをお聞きしております。田んぼダムが加わって、より複雑になったら取り組む団体が増えないんじゃないかと思います。その対策としては何か考えられているでしょうか。

以上で再質問を終わります。

ありがとうございました。